

2026年1-3月展示・館員おすすめの本

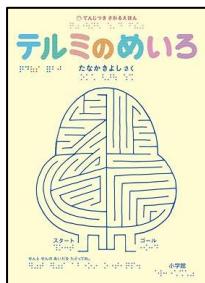


「読書の楽しさをすべての人に」 やさしく読める本



世の中には様々な理由で、文字を読んだり理解することが難しいと感じる人たちがいます。目が不自由な人、読み書きに障がいがある人、外国にルーツを持つ人たちなどが、わかりやすい内容で、楽しく読めるように工夫して作られた本を「バリアフリー図書」といいます。それぞれの人にあった読書の方法で、すべての人が本を読む楽しさを体験できるようにお手伝いできるといいですね。

(原真由美)



点字つきさわる絵本

6つの点を組み合わせてひらがなを表した文字（点字）を指でなぞって読みます。点字と絵を盛り上げて印刷されていますが、よくみると元の絵とずれているものもあります。これは、実際に障がいのある人に、触った時のわかりやすさをチェックしてもらい、レイアウトを調整しているのだそう。『ぐりとぐら』などの絵本のほか、迷路の本などもあります。

LL ブック

「LL」とはスウェーデン語で「やさしくよめる」という意味です。写真だけで作られたもの、ピクトグラムと簡単な文字で理解できるようにしたもの、難しい内容をやさしい言葉で説明し直したものなどがあります。スウェーデンでは50年前からこうした本が作られていました。身近な暮らし、マナー、人とのコミュニケーション、仕事をテーマにしたものなどがあります。



布えほん

マジックテープやファスナー、スナップなどで、絵を取り外したりつけたりして、手触りを楽しめる布の本です。赤ちゃんのためのものだけではなく、交通事故、スポーツによるケガ、病気による手指機能の回復など、大人のリハビリにも役立ちます。



〈読書バリアフリーを知ろう〉

藤沢和子・服部敦司『LL ブックを届ける』読書工房 2009

読書工房『読書バリアフリー』 国土社 2023

ピープルデザイン研究所監修『読みやすい本ってなんだろう?』フレーベル館 2024



〈お互いに理解しあうために〉

ジェン・ブライアント文『6この点』岩崎書店 2017

齋藤陽道『病と障害と傍らにあった本。』里山社 2020

高田裕美『奇跡のフォント』時事通信社 2023